

第5回市民総参加のまちづくりサロン会議録

平成19年8月30日

午後7時～8時30分 イルフプラザカルチャーセンター

第1、2多目的ホール

市民参加者 21人

市側参加者 5人

■開会

■岡谷市民憲章唱和

■小坂主幹：(前回どんな話し合いが行われたか、また、出た意見については提言としてまとめることを説明。)

■意見交換：前回に引き続き、グループに分かれて進行。

テーマ「健康・福祉・子育てなどについて」→希望者5人

「環境・ごみ・景観などについて」→6人

「街の賑わい、活性化などについて」→10人

○健康・福祉・子育てなど (参加者5人)

- ・通学区の見直しが話題になっていた。一部に反対があり見直しはされなかった。
- ・兄弟での通学や区の行事等の関係で反対があったようだ。当事者の個別の反対はあるだろうが、通学区と区の区域は異なるところが市内いたるところである。
- ・一致させるほうが無理で、区や学区の違いから子どもたちは地域のことを学んでもいるのでは。
- ・高校の統廃合も同じだが、将来的な人口の増減を考慮して見直しなくちゃいけない。短期間での統廃合は理解が得られない。数年かけて進めることが必要。
- ・東堀の人口が増え長地小は児童が増えてくる。岡谷小は子どもが減っているが、中心地であり振り分けが難しい。
- ・住居表示も区にこだわると進まない。親、保護者の都合より、子どものためにどうするのが良いかを考えなくてはいけない。
- ・岡谷市全体を見れば通学区や学校のあり方も見直さなくてはいけない。財政の厳しさを市民が理解しなくてはいけない。
- ・高校再編でも空き校舎は老人ホームに活用するなど、建物を活かす方法はある。行政の進め方、PRが下手すぎるし、市民の関心も低い。保育第3子の問題も唐突すぎたし、病院統合のPRももっと外に、市民にもすべきだった。市民が考える動機付けが必要。市民自らの努力も足りない。

- ・広報おかやの編集は素晴らしいが、どれだけの人を読んでいるのか疑問。市の予算なども特集で紹介されているが、市民がどれだけ理解できるのか。毎回号で一口メモのように、もっとわかりやすく情報を提供してはどうか。
- ・市政懇談会もプロジェクターなど使い、わかりやすく工夫されているが、参加者が少ない。参加者が発言しやすいような雰囲気も必要で、職員が居並んでいると気後れする。市民の自由な意見が出されるような場になれば良い。
- ・市政の運営には市議会のチェックや責任もある。夕張市も行政だけが悪いのではなく、チェックできなかった議会も悪いし、議員を選んだ市民の責任もある。市民がもっと勉強しなくてはいけない。
- ・夕張市の病院は、医療法人が運営しており、介護施設も併設している。これからの病院には複合的な運営、経営が求められる。
- ・行政は縦割りで融通が効かない。子どもにとって本は大切だが、図書館でお話の森の読み聞かせをやっているが、3歳以下を対象とするものが少ない。子どもの国でも同じことをやっているが、4歳以上は参加できない。
- ・新病院も本が近くにあることを生かして、病院を利用する人が図書館を利用しても良いのではないか。
- ・病院の医師確保も難しい。岡谷市出身の医学部学生に市民が奨学金を出してはどうか。ふるさとへの思いを今の学生が意気にかけてくれるかどうか。是非地元で活躍してほしい。救急車の妊産婦のたらい回しも事故や補償の責任が医師にとって重いという。
- ・新病院は循環器と脳外科が基幹の病院になると聞くと、市民の役に立つ他の診療科目も大切にしてほしい。病診連携も大切で、街医者との協力も必要でないか。

○環境・ごみ・景観など（参加者6人）

- ・田原市はごみ焼却で出た炭を民間の製鉄所で使っている。全て再利用される。
- ・方法はガス化溶融と同じで、通常はごみをガスにして燃やすが、田原市はガスにする段階で炭化物を集める。岡谷で行っても炭化物を売る施設が確保できるかわからない。
- ・このような施設は全国で6箇所あり、田原市は建設から3年経過した時点で、安全性についてはわからない部分もある。ごみの有効活用の一つの方法ではある。
- ・炭はコークスの代わりに燃やしたり、溶解炉の保温材としても使える。住宅用の保温材としては使われていない。ごみから作るのだから、すすが多く出る。
- ・炭は製鉄、製糸、セメントの工場で使える。近くなら糸魚川、岐阜市あたりに使う施設があるが、運賃の面でメリットがあるかわからない。
- ・ガス化溶融と方式は同じなので経費はそれほど変わらないが、炭は売れるので、埋め立てを考えなくていいメリットはある。施設が増えると過剰供給になると思う。
- ・私たちは炭の活用より、ごみを出さないことを考えた方がいいのではないか。いい施設ができたから、いくらでも出していいことにはならない。

- ・市はごみを減らすことを前提に、環境への負荷、経済性、安全性も考えている。一つの方法として炭化施設があるが、もっと広い視野で検討することも必要。
- ・ごみ処理と減量は分けて考えたい。施設の話よりその前の段階を考えた方がいい。
- ・衛生自治会がごみ減量の活動をしたという記事を見たが、どの程度の活動をしているのか。ここの活動を活発化したらごみ減量につなげることができるのか。ごみ減量をメインにした別の組織（推進母体）を作った方がいいのか。
- ・衛生自治会は昔からごみ減量に取り組んでいるが、なかなか進まない。ここのように具体的な意見が出ることもない。エコライフおかやは環境市民会議に名前を変えたが、ごみ減量を推進するには弱さを感じる。
- ・衛生自治会は市の外郭団体か。→市から独立した21の地区の組織である。今はごみ問題、環境美化活動などの問題がメインになっている。住民全員が役員をやれば意識の向上につながるという話もある。
- ・最大の問題はごみ減量化。焦点を絞って活動した方がいいのではないかと。ごみの出し方については多くの人が熱心に活動しているが、減量まで手がまわらないようである。
- ・ごみを出しても出さなくても同じという意識がある。収集を週2回から1回にするのはどうか。集めなければ出さないのではないかと。
- ・市民と行政で意識が違う。行政は出るごみをどう処理するか考え、市民はごみを出さないよう考える。施設を作れば安心してごみを出すようになる。施設をメインに考えるか、減量をメインに考えるか2つあると思う。
 - ・生ごみを減らすだけでもだいぶ違う。生ごみ処理機の補助を増やすことはできないか。自分で処理するのが基本と思うが、処理した物の行き場が無い人もいるので、それを分別収集することはできないか。
- ・生ごみは水を切ると重量が減る。ごみ処理機の前の段階の話ではある。
- ・以前は水を切ることを衛生自治会で指導していた。
- ・ごみ減量の期間を設定し、目標を作ると頑張るが、それを過ぎると元に戻る。有料化などの強制が必要かもしれない。
- ・有料化などの強制力とは何か。→収集回数をへらすことではないか。
- ・もえないごみは月1回になり1割から2割減った。回数を減らせばごみも減るかもしれない。
- ・タウンミーティングのような地道なことからはじめないといけないのではないかと。時間がかかっても、市民が納得した形で進めないとうまくいかないと思う。
- ・事業所単位で減量を徹底することは可能か→大きな会社は経費節減のため頑張っている。中小企業は担当者によって違ってくる。
- ・ごみ減量の目標を宣言したらどうか。→松本では大きな会社に減量計画を出させている。
- ・これからは生産性を落としてでも環境を考える必要がある。無駄なものは買わないなど、できることから始めないと間に合わない。意識を変えることが重要である。

- ・生活を変えると経済成長に影響するかもしれない。しかし、ごみ減量には質素な生活が必要。
- ・今の生活様式はどこかで行き詰まる。バブルの時のような生活は続かない。
- ・岡谷は都会と違い、まだ地域の繋がりがあある。それを生かしていい環境を残す方法を考えたらどうか。
- ・今までと違う、市民発の仕掛けはどうか。市民が考えているという視点が必要。
- ・ごみ減量化は必要と思うが、反発する人がいるかもしれない。また、有料化すればごみを出していいという考えの人もいる。
- ・環境に関心がある人は有料化を肯定的に考えているが、ごみの減量と有料化は別の問題ではないか。単純に有料化すればいいわけではないと思う。
- ・ごみ処理を独立採算制にしたらどうか。ごみ処理費用の総額によって市民の負担額が変わるようなシステムが可能か。
- ・各家庭でごみを出す量によって負担を変えるシステムは必要だと思う。生ごみを家庭で処理する家とそうでない家の負担は変えるべき。有料化はその差別化を計るためにいい方法だと思う。
- ・いきなり有料化するのではなく、収集回数を減らすなど段階を踏んで進めたらどうか。ある程度市民意識が高まってからでないと市が悪者になる。
- ・大型の生ごみ処理機を地区に設置することは可能か。管理は地区で行えばいい。個人で簡単に行うなら、ダンボールの中で処理する方法もある。
- ・住民が話し合う機会を作ることを提案することは可能か。ごみ問題は住民発の方がいいと思う。

○街の賑わい、活性化など（参加者10人）

- ・まちのにぎわいや活性化について、2つの要素があると思う。
- ・一つはマンションについて、フォレストマンションの担当者に話を聞いた。今岡谷には3つのマンションが建てられ、駅前も9月に完成する。担当者は売れ残りについて心配はないそうだ。自分たちが知らない魅力が岡谷にはあるということ。岡谷のまちは、昔はよかったが今はだめという先入観があると思う。担当者は青森の人で全国の状況を知りながら岡谷を選択している。マンションは長野、松本、上田にもあるが、伊那や飯田、塩尻にはない。他所から見ると岡谷はいいところと見えている。
- ・二つ目は、9月30日に富士フィルムが閉鎖し、140人の職が無くなるという。同じように山梨でも昭和インターの近くの松下の工場が閉鎖し、300人から400人の職が無くなるという、町は大問題となっている。このように今は日本中が大変な状況で、これは他の市町村でも同じように悩んでいる問題であるということ。こういう状況は気分が滅入ってしまうが。
- ・賑わいや活性化には地元の人がどうしたいのか聞いてみたい。567丁目の鈴木パン屋

や白川産婦人科の近くの松井さんの飲み屋があるところは、建物を壊して駐車場になった。中央通り沿線は、以前から土地、建物、借主が別なため権利関係が問題となり、相続などがあれば動きができるが、解決には時間がかかる。結論としては、まちとして考えた時には、田中線や丸山橋など今条件がいいところを活性化していくこともあると思う。前回から中央通りの活性化をどうするかが問題となっている。

- ・太鼓祭りなどのお祭りを見て、中央通りほど歩いて楽しめる道はないと思った。歩いて町を楽しむこと、歩行者天国が大好きで、車を置いて歩くことをこれからのメインにしたらどうかと思う。休めるカフェテリアとか、貸し出しカートとか、フリーマーケットとかを考えてみたらどうか。フリーマーケットの時は歩行者天国にする。空いている店舗は貸出店舗や音楽など趣味の発表の場として使う。そんなことが月に1回でもできればいいと思う。下諏訪の大社通りはある時期にはやっている。
- ・マンションに入る人は、土地が平らなので車がなくて住んでも困らないと思う。「岡谷はいい所」と年を取ってくれば思う。
- ・浜松に土日だけ開くスーパーがある。「ビッグ富士」というが、野菜や生物、冷凍肉などディスカウントなのでとにかく安い。そういうものがあればいい。
- ・歩行者天国は、道路を利用すれば権利関係には問題がない。
- ・こういう時に岡谷の人達は一丸とならない。諏訪の駅前も同じように寂しくなっている。
- ・中央通り関係者として、歩行者天国はいいお話だけれどもとても無理。一方通行でさえ解除できないのに。いろいろな業種の集合だから車が止められないと困ることもある。
- ・それぞれのお店には駐車場がない昔からのお店で、自分のところは30台あっても店の前に止める。毎月やりたいけど難しい。
- ・中央通りを活性化するにはどうするか、お祭りだとあれだけ人が来る。
- ・きつね祭りは中央通りのお祭りなので別としても、太鼓祭りは4丁目はともかく567丁目には人が来ていない。
- ・長持ちだけ、太鼓は来ない。お祭りは近いけど中央通りはあまり関係ない。
- ・以前は駅から踊り連とか上がって来たので賑やかだった。
- ・車の規制も4丁目は夜9時まで、567丁目は6時頃には解除され車が入ってきた。
- ・それでも、うちの店では10時まで300円のくじ引きをやっていた。他はみな暗かったけど二日で500人がくじを引いてくれた。お祭りから帰る人から何もやっていないと言われることもあり、帰りに寄って行くと声を掛けながらやっていた。
- ・フリーマーケットの提案はいい。夏は太鼓祭り、秋には頑張ろうおみやげフェスタが今年もあり、楽々市と一緒にやっていく。
- ・商店で集まってそういう話し合いをするべき。商店自体がガッチリ組んで。
- ・おかみさん会もあるけれど、商業会が2つに分かれている。4丁目、567丁目、元々は4つ。4とか567とか言っていないで一緒にやればいいと話をしても何か進まない。
- ・商店自身が取り組みを進めないとうちにもならない。

- ・下諏訪の三田町はいい感じでやっている。
- ・フリーマーケットは自分の店の物を店の前に出してやるのが大切なのに、他の人が来てやっているだけ。別に自分の店の物でなくても、自分の家で不用な物でも何でも並べられるのに、人が居ないとか、忙しいとか理由を付けている。
- ・太鼓祭りには、長持ちが何で来るのか。長野びんづるや、松本ぼんぼんなど踊りがメインである。太鼓を見に来ているのに長持ちを見に来た訳ではないと言う人もいるが。
- ・理由としては、市民祭であり、区の参加やバックアップが必要であるということ。踊り連なども含めみんなが参加できるということではないか。祭りとして賑やかになる。
- ・仙台の七夕祭りに行った。松本からバスが出ている。いい市民祭であり、手作りで1本100円のメロンとパイナップルを売っていた。おかやでも、うなぎ屋さんとうなぎのおにぎりとか作って売ればいい。
- ・お祭りに来た人がまた来たいと思うかが大切である。
- ・商店の問題は、お店は中央通り、住宅は間下とか別にあり、年を取って後継者が居ないなどで年金をもらって生活するようになればお店はやらない。そうして空いた店舗が沢山できる。
- ・商業者で無い人にもこれだけ、中央通りを考えている人がいる。
- ・中央通りのワークショップをやりたいと考えている。市議の鮎沢議員、浜議員と一緒におかみさん会と一般の人も交えて、10月頃やりたい。これで商業者に活を入れる。
- ・商業会でスイカ割りをやった。出店としては、カキ氷、綿菓子、ポップコーンを出したら、かき氷は全然ダメで綿菓子には20人位の行列ができた。お祭りの時、皆さんにもやってもらいたい。七夕は諏訪市の末広でもやっている。
- ・仙台の祭りは、サンバや音楽隊、梯子乗りなどがあり、最後に参加者皆で歌を歌う。正に大合唱すごい。
- ・まとめもあるので、「よみがえれ中央通りの会」みたいなものを立ち上げ、毎月行事をやることを考えたらどうか。企画をして、予算を市から貰えばいい。
- ・まちのベンチを作るのに寄付を貰って名前を入れているところもある。
- ・ベンチは道に置くことができない。歩道がないから。
- ・前に松本でやっている「トイレをどうぞ、お茶をどうぞ、ベンチをどうぞ」をやってみたいと思ったが、あまりうまくいっていないようで、自分としてはちょっと休めるサロンのようなものを考えている。来た人からは100円位は出してもらいたいので、回数券のようなカードを作ってジュースなどを出す。そんな提案を「学んで提案講座」で出していきたいと考えている。
- ・よく行政は労働者のまち、女性の働くまちというが、物を買うまちであるとは言っていない。こういうことは言うてはいけないと思う。
- ・働いてお金を手にすれば買い物に行くことになる。

まとめ

- ・中央通りに絞って話をした。中央通りほど歩いて楽しい道はないという意見がある。
- ・空き店舗の問題は、土地や建物などの権利関係が難しい。
- ・基本的には商業者が頑張らないといけない。
- ・市民としても中央通りを応援するグループを作ったらどうか。
- ・市民の中央通りに対する思いを持った人が集まって共同でイベントを企画したらどうか。
- ・働く人と買い物する人とのバランスのいいまちづくりが必要である。

(8時20分～、3グループの代表が話し合いの内容を簡単に発表)

■小坂：第5回サロンは9月25日(火)に、イルフカルチャーセンター第1多目的ホールで、午後7時から行う。

(終了 8時30分)